

令和4年度診療科別目標発表

リハビリテーション科

医師の紹介

リハビリテーション科

No.	氏名	役職等
1	片山 直紀	科長 診療技術部リハビリテーション科長 日本リハビリテーション医学会 専門医 指導医
2	塚本 穂波	医長 日本リハビリテーション医学会 専門医

現在、2名のリハビリテーション科専門医が在籍しています

診療実績等



リハビリテーション科

主な診療実績	R2	R3
疾患別リハ(入院)	5,985回/月	6,783回/月
疾患別リハ(外来)	920回/月	1,063回/月
リハビリテーション総合計画評価料1・2 (入・外)	274.8件/月	306.5件/月
退院時リハビリテーション指導料	55.3件/月	103.6件/月

中期目標・令和7年度に目指す姿

リハビリテーション科



超急性期医療としてのリハビリテーションの確立

- ・ 超急性期に対応したリハビリテーションプロトコールの作成
- ・ 専門性の高いリハビリテーションスタッフの育成
- ・ 専門性を活かしたリハビリテーション科外来の充実
- ・ リハビリテーションによって円滑な地域連携を図る

短期目標・令和4～5年度の目標

リハビリテーション科

No.	項目	目標
1	周術期リハビリテーション	周術期リハビリテーションへの積極的な介入と明確なゴール設定。疾患に応じたプロトコールを作成
2	がんのリハビリテーション	治療期に対する運動療法の導入。患者の取り入れ
3	脳卒中リハビリテーション	1日でも早い離床・歩行訓練を目標としたチーム作り 脳卒中入院患者・家族へのパンフレットの作成
4	装具連携の推進	診療所や行政、介護施設と協力したリハビリテーション診療体制の確立を目指した話し合いの充実
5	摂食嚥下リハビリテーション	摂食機能療法の充実、摂食嚥下支援加算の算定 当院で終わらない嚥下サポート体制のための連携

リハビリテーション科

急性期を対象とした診療



ICUでの早期離床



脳卒中中の歩行訓練



嚥下内視鏡検査



気管挿管中の離床

リハビリテーション科

専門性を活かした外来診療

- ・ 義肢装具外来

脳卒中後遺症で下肢装具使用中の方

脊髄損傷による車椅子使用や、切断等により義足を使用されている方などが対象
義肢装具の定期的なフォローアップや、必要に応じた作り替えを実施

- ・ 摂食嚥下外来

誤嚥性肺炎のリスクとなる摂食嚥下機能低下について、外来で専門検査として
嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を行い、必要な注意点について指導

- ・ 高次脳機能障害外来

脳損傷の既往のある方を対象に、神経心理学的検査等による評価
及び社会復帰、家庭生活の安定を目的としたサポートを行う

- ・ 痙縮治療外来

脳卒中等による上肢痙縮・下肢痙縮のある方

生活機能を踏まえた評価を行い、ボツリヌス治療の実施を検討

決 意

入院からはじまる
早期リハビリテーションと、
専門外来で
生活機能の維持・改善を支えます